

二〇三三年七月二四日

しばし待つ田植え機亀の横断中
雨空に月の鉾出づ京の辻
餡蜜のなかなか減らぬ二人かな

千鶴
もとこ
むべ

二〇三三年七月二三日

炎昼の被災現場の救助隊
借りし本抱えて宿る夕立かな
夏空や先の先まで青信号
蓮広葉ひるがへるたび池揺るる

千鶴
あひる
かえる
もとこ

二〇三三年七月二二日

夏空に櫓の鯨の睨み合ひ
笹飾り低きに結ぶ四十肩
青信号片蔭で待つ交差点

ぼんこ
なつき
豊実

二〇三三年七月二一日

合掌の双手を解きて藪蚊打つ
土用波叩ひて進む漁船かな

澄子
みきお

二〇三三年七月二〇日

客打つて叱られてゐる水鉄砲
山峡の植田に匆ねる落暉かな
瓢の笛優しく吹けば鳴りにけり

よし子
あひる
うつぎ

二〇三三年七月九日

木下闇苔まみれなる石仏
遠花火愛づる二階の物干し場
邸涼し読みし逸翁語録なほ

ぼんこ
智恵子
うつぎ

二〇三三年七月八日

楊梅を含みし頬のかた笑窪
禰宜の妻ようお参りと笑み涼し

素秀
小袖

毎日句会みのる選・二〇三三年七月一六日